

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡崎商業施設計画(商業施設棟)	階数	地上2F/地下0F
建設地	西三河都市計画事業岡崎本宿山中土地区画整理事業6街区1画地	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	- 人
気候区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年4月1日
敷地面積	60,455 m ²	作成者	番陸宏
建築面積	34,740 m ²	確認日	2024年4月1日
延床面積	49,770 m ²	確認者	番陸宏



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 82% (151 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>③上記+②以外の: 82% (151 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>④上記+: 82% (151 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.6</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.7</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 3.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.4</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.7</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>24.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.2</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)岡崎商業施設計画(商業施設棟)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
												評価点	評価点
Q 建築物の環境品質													3.6
Q1 室内環境													3.7
1 音環境													3.8
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.8	0.15	-	-	-	-	-	-	-	3.8	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		0.4	5.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	5.0	1.00	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	3.0	0.20	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2 温熱環境													2.7
2.1 室温制御		0.3	2.7	0.35	-	-	-	-	-	-	-	2.7	
1 室温		0.5	3.3	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	3.0	0.50	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.20	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
		3.0	3.0	0.30	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 光・視環境													4.5
3.1 屋光利用		0.2	4.5	0.25	-	-	-	-	-	-	-	4.5	
1 屋光率		0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	4.0	1.00	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 屋光制御		5.0	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
4 空気質環境													4.3
4.1 発生源対策		0.2	4.3	0.25	-	-	-	-	-	-	-	4.3	
1 化学汚染物質		0.5	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	5.0	1.00	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
1 換気量		0.3	3.5	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	4.0	0.50	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
Q2 サービス性能													3.5
1 機能性													3.6
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.6	0.40	-	-	-	-	-	-	-	3.6	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		0.3	5.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性													3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.3	0.31	-	-	-	-	-	-	-	3.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	②	0.3	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		0.1	4.8	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.3	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性			②		3.0	3.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性					3.0	4.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22		-	
3.1 空間のゆとり										
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上										
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			独自③		3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		4.0	0.40		-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		4.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.3
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	4.0	0.20		-	4.0
3 設備システムの高効率化					3.0	2.9	0.30		-	2.9
4 効率的運用				0.2	4.5	0.20	-	-	-	4.5
4.1 モニタリング				1.0	4.5	1.00	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	4.0	0.50		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	5.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			①		3.7	0.33		-	-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止					4.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.7	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		4.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			独自		5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自		3.0	0.50		-	-	
2 振動			独自		3.0	0.50		-	-	
3 悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					5.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)岡崎商業施設設計画(商業施設棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:24.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{(評価点} \times \text{全体に対する重み)の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)岡崎商業施設計画(商業施設棟)

計画上の配慮事項	
総合	計画地は田畑が広がり、背景には山並みがある緑豊かな環境である。商業施設内にもガーデンエリアを計画し、地域の自然環境を継承する。
Q1 室内環境	内装材は、F☆☆☆☆を使用し、化学汚染物質の低減を図っている。
Q2 サービス性能	ゆとりある階高により将来的な設備変更を対応可能にしている。維持管理に配慮した計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に計画されたガーデンエリアによって豊かな自然環境を形成している。緑豊かな周辺環境に配慮し、外装はアースカラーを基調としている。
LR1 エネルギー	ハイサイドライトを採用し、自然採光を行っている。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を設置し、節水に取り組んでいる。
LR3 敷地外環境	交通負荷抑制の為、敷地内に車の滞留長を十分に確保する計画とし、渋滞緩和の為、出入口の位置を分けている。また、十分な駐車スペース、駐輪場を確保した計画としている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。